

男女共同参画教育 実践事例

豊前市立千束小学校

1 本校の男女共同参画教育が目指すもの

学校における男女共同参画教育は、指導理念の共通理解を深めるとともに、児童の変容を促す日常指導の充実を目指す時期にある。本校では、「男女共同参画教育 - 指導の手引き -」(福岡県教育委員会)を実践活動の基盤とし、学校の全教育活動の中でこれに関わる教育活動を実施することを共通理解し推進している。内容としては、授業を通じた実践の積み上げと充実を図ること、及び男女平等に関わる認識を深め実行を支える教育環境を整備することの2点である。

2 本校の男女共同参画教育の目標

男女平等の意識の育成する。

一人一人の個性や能力を発揮させるとともに伸長させる教育機会を充実する。

3 2つの視点からの実践の内容

(1) 男女平等観の育成

男女共同参画教育では、男女が本質的な平等と人格の尊重を基盤としてともに責任を分かち合うという考え方を育成することが大切である。

そこで、本校では四つの資質・能力のうち「豊かな心」・「性差の正しい認識」・「自立する力」の3つを身につけさせながら、日常生活の中で適切に意志決定したり、行動選択ができたりするよう、児童の発達段階に応じて具体的に働く「実践的態度」を育成していくことを重視している。

(2) 教育環境の整備

男女共同参画教育を推進する教育環境は、児童に不必要な男女による性差を感じさせない物的環境の整備、及び男女ともによさや個性の発揮と伸長を促す体制の整備である。

物的環境の整備について

児童が一日の大半を過ごす教室には、不必要に男女で分ける掲示や役割分担の表示などをしないよう配慮している。整列の仕方、ロッカーや靴箱の位置、作品の掲示などについては全学級が配慮している。

体制の環境について

教育活動では不必要に男女によって役割分担をしたり、グループ分けをしたりしないように配慮している。

また、学校では教員の男女別による役割分担をしないよう配慮し、子どもに無意識のうちに「男女の役割は決まっている」といったとらえ方をさせないように配慮している。

4 指導計画（第4・5・6学年）

	題 材 名	目 標	配 時	目指す資質能力
4 年	船長はだれ？	・男女に関する固定観念や思いこみに気付かせ、日常の行動や意識を見直す。	1	性差の認識
	こんなことができますか	・生活面、精神面の自立のために必要な経験ができているかを振り返らせ、自分の生き方を広げる経験に積極的に取り組もうとする態度を培う。	1	自立する力
5 年	アリーテ姫の冒険	・主人公の生き方に共感させるとともに、課題解決に積極的に取り組む姿勢や個性を生かし伸ばそうとする態度を培う。	2	実践的態度
	女の子向き、男の子向きの係（委員会、クラブ）活動？	・それぞれの個性を生かして役割を分担するという考え方ができるようにするとともに他の意見を受け入れながら、男女が協力して係活動に取り組もうとする意欲を育てる。	1	自立する力
6 年	女の子だから？	・身近な生活の中にある女らしさ、男らしさを固定する考え方に気付き、自分のよさや個性を生かして生きようとする態度を育てる。	1	性差の認識 実践的態度
	家庭も仕事も	・家庭生活と職業生活の両方を男女が互いに協力して行う生き方を知り、将来の生き方についての認識を深め、自己形成の能力を高める。	1	実践的態度

5 実践例

(1) 第6学年 学級活動 題材「女の子だから？」

目 標

身近な生活の中にある女らしさや男らしさを固定する考え方に気付かせ、自分のよさや個性を生かして生きようとする態度を育てる。

指導の実際

ア 児童の実態

本学級の児童は、男女ともに協力して活動を進めようする意識を持ち、よりよい学級づくりを目指しての係活動を始め、委員会活動、クラブ活動などでそれぞれの個性を尊重しながら活動することができる。しかし、活動の推進を急ぐ余り自己中心的な行動をとって友だちに誤解されたり、反対に友だちの言葉を気にしすぎて活動が停滞したりする状況もある。さらに女子には、男だから・女だからといった決めつけた見方を気にする傾向が見られる。そこで、自分の言動を冷静に判断したり、誠実に行動したりすることは、男女を問わず大切なことに気付かせよりよい見方・考え方を身に付けさせるとともに、実行動ができるようにしたい。

イ 指導の構想

ここで使用した資料は、新聞の人生相談に寄せられた若者の悩みを素材として、児童用に構成したものである。相談者は、教師にだらしない服装を注意されたことを「女だから注意されたのであり、自分が男なら注意されなかったのではないか。」と考えて不信感を持っている。それに対し、回答者は、「だらしない服装は男女を問わず見苦しいものであって、先生に不信感を抱く前に、自分自身の決めつけた考え方や、男女を分ける考え方にすり替えて満足してしまう自分の甘さを見つめ直しなさい。」といった意味のアドバイスをする。

このようなことは、児童の日常生活の中でも起こりうることで、これに類似した経験を持つ児童もいると考えられる。ここでは、社会には男女を分ける考え方もあるがそれをどのように受け止めるのか、またそれにとらわれずに自分のよさを生かす生き方をどのように実現しようとするのかについて考えさせたい。さらに、児童が、今後、進路選択や自らの生き方・在り方を追究していく上で、掘りどころとなる見方・考え方の基礎を培いたい。

そこで、指導にあたっては、相談者の経験や意識に共感させるとともに、回答者の言葉を手がかりに、誠実な考え方や行動の大切さや自分のよさを生かすことは、男女ともに重視されることであって、とらわれた考え方が自らの生き方さえ狭めていくことに気付かせたい。さらに、もう一人の相談者の悩みに児童が答える活動によって、今後、誠実な行動やとらわれない考え方を身に付けようとする意欲を確かなものとさせたい。

ウ 児童の反応

相談者への第一の回答には、次のような答えが多く見られた。

あなたはこの女の子の相談を聞いてどう思いますか。

あなたが回答者だとしたらどのように答えてあげますか。

わたしは、この相談に出てきた先生に「どうして女の子だから、かかとふんじゃいけないの」っていいたいです。だって男の子も女の子も関係ないから。

否定されたんじゃないくて、言われた人のために言ったのだと思う。理由は大人になってそんなことをしているとはずかしいから。

児童は、性別に関係なく自分の好みや考え方など、自分自身の持ち味に肯定的なイメージを持っている。この考え方を延長した形で相談者に答えているといえる。しかし、その考え方は判断の甘さや社会的な厳しさに欠けており、人に迷惑をかけていないからいいじゃないか、といった自己中心的な考え方である。これを「男女の違いで区別する」という価値判断にすり替えてしまうことは、男女共同参画社会の構成者を育成するという意図にそぐわず、このようなすり替えをなくしていくことが男女平等の意識や実践的態度の育成に欠かせないものである。このことは本時の指導において、回答者の答えという形で気付かせたい価値そのものでもある。

次に先輩の若者からのアドバイスという形で回答者の答え方を吟味させた。

回答者は相談者の考えにどう答えていますか。

男の子らしさはこう、女の子らしさはこう、ときめつけてはいけないと考えている。

だらしない格好をしているのを、男とか女とかにすりかえることがおかしい。

さらに、この回答を聞いて自分はどうか、男女の違いにとらわれない考え方や行動ができていないかを見直させた。

第一の回答と比較して、児童の考えは次のように変容している。

この相談と回答について、あなたの考えを書きましょう。

「自分の頭の中の甘い判断だけを正しいと勘違いしています。」という言葉が自分に必要だなと思いました。

回答者の文を読んで、あっそうだ。相談者の中にそういう男とか女とかがあったから、考えすぎたんだと思いました。

ぼくはこのことを聞いて「大人になるにはこういうこともたくさんあるんだなあ」ということが分かった。

ここまでの活動を受けて、さらに第2の相談者に対し自分が回答してあげるという場面を設定した。第一の相談者は女の子と設定したが、ここでは反対に男の子からの相談とし、男らしさ女らしさをどう考えるか、あるいは男女がともによさを発揮しながら協力して社会を築いていくにはどう行動すればよいかといった内容は男女共通の課題であり、ともに考え解決していく必要があることを意識させた。

これに対し児童は以下のように答えている。ここからは人間として誠実な考えを持って自分自身のよさを生かしていこうとしていることが読み取れる。

女みたいだ、とからかわれている相談者に対する回答

男らしいっていうのは、努力して最後まで自分が決めたことをやる。ちょっとしたことじゃくじけずにするのが男らしい。でも一番なのは人が困っているときに助けたりする。それが男らしいっていうんじゃない。あまり分からないけど。

私は、男だからこうじゃなくちゃいけない、これは男だからしてはおかしい、というのはちがうと思います。しゅみは人それぞれだし、私は女だけどスポーツが好きです。だから気にしなくてもいいと思います。それで

も友だちがそんなことを言ったら、好きなわけなどを話して、友だちといっしょにやってみて楽しさを分かってもらいましょう。そしたらきっとかわかなくなると思います。やったことがないから女みたいだと言ったんだと私は思います。

私も1年生ぐらいの時、ほかのことで、そういうことを言われたことがあります。私はあなたの気持ちがよくわかります。「女みたいだ」と言った人もわるいけど、それで自分の楽しいことをやめることのほうもだめ。男らしいとか女らしいと言うことにつられず、自分の楽しいことをするのが一番だと思います。くよくよせず、自分の心にほんとうだと思ふことをやるのが一番です。

考察

この実践によって、男女がともに協力して学校生活を築いていくという考え方を再確認させることができた。児童は、日常生活や既習経験で当然知っている価値ではあるが、この意識を実践的態度へと変えていくためには、改めてその意味についての価値付けを確かにさせる取組が必要であると言える。